



海外派遣留学プログラム報告書

フィンランド・ラップランド大学

(2022/08/12～2022/09/30)

LIFE

私が留学しているラップランド地区はフィンランドの北部に位置しており、中でも北極圏に近いロヴァニエミ市にラップランド大学があります。ラップランド大学は千葉大学に比べるととても小さな大学ですが、学割で2.70€で食べることのできるビュッフェ形式のカフェテリアや24時間利用できる図書館があり、学生が落ち着いて勉強ができる環境が整っています。近くの University of Applied Science との連携もしており、学生同士の交流が多くあります。カフェテリアの食事がとてもおいしく、毎度毎度食べ過ぎてしまいます。学内の体育館や運動場の情報を聞いたことがないので、運動する機会をどこで見つけるかが現在の課題です。



↑食べすぎ注意のカフェテリア



↑大学のメインエントランス

私は DAS という大学連携の不動産から提供されるアパートに住んでおり、大学からは徒歩 5 分ですが、自転車を購入しました。フィンランドでは自転車が主要な移動手段の一つになっており、安いスーパーやシティセンターに行くのに非常によく利用しています。天気の良い日にはサイクリングをするのがとても気持ち良いです。また、ポーランドからのルームメイトとフラットシェアをしています。彼女が来る前は少しホームシック気味になっていたため、気軽に声をかけて話ができたり、一緒にご飯を食べたりできる相手がいることはメンタリティにとっても重要だと感じました。



↑友人とサイクリング

←ルームメイトに振舞ったカレーと肉じゃが
日本のカレーは少し辛すぎたようです

到着をしたのは8月半ばで、少しの間ですがフィンランドの夏を体験することができました。まずはサウナ後の湖ダイビングです。フィンランドではアパートにロウリュ付きサウナが備えてあるのが一般的ですが、公衆サウナではスモークサウナも楽しむことができました。サウナの中で会話を楽しんだ後に湖へ飛び込むと大騒ぎでき、友達との仲も深まる気がします。

次にハイキングです。都会育ちの私は正直「疲れそうだなー」とあまりハイキングに対して意欲的ではなかったのですが、ヨーロッパからの友人が森に対して様々なコメントをしていたり、森の中のゴミを拾っていたりして、育った環境の違いや視野の広さを感じ、とても感銘を受けました。また、静かな森の魅力に惹かれていき、今では早朝に一人でも森の近くの川沿いを散歩するほどになりました。

最後に、ブルーベリー狩りです。フィンランドの森では様々な種類のブルーベリーを見つけることができます。一緒にブルーベリー狩りをしたフィンランド人の友達にブルーベリーパイをつくってもらいました。ブルーベリーの取り方やパイのレシピはおばあちゃんの代から受け継がれていくようで、フィンランドの人々と森の距離の近さを感じました。赤い実はリンゴンベリーという少し酸っぱい種類のベリーで私のお気に入りの味です。



普段は想像していたよりもかなり多くの勉強の時間を多く取っていますが、週末や夜の時間帯は友達との時間を楽しむことが多いです。ロヴァニエミは観光都市のためか、多くのイベントが開催されていて余暇の過ごし方に飽きることがありません。特に、オーロラは夏の終わり～秋の時期がピークで、何度も見ることができました。オーロラのある生活に慣れてしまいましたが、オーロラと流れ星を同時に見たときはさすがに感動しました。

9月過ぎからは一気に寒くなり、9月半ばには既に木々の美しい紅葉を見ることができました。日本から持ってきた冬服をすべて着てしまったため、寒い冬が若干不安ですが、早いと10月には雪が降るそうなので雪のある冬を楽しみたいと思います。



←オールドマーケットのトナカイ



STUDY

私は Social sciences の学部 に所属して観光に関する勉強を中心に学ぶ予定ですが、ラップランド大学ではあらゆる学部の授業を取ることができます。そのため、前期の 1st period は留学先であるフィンランドを知ることを一番の目的に授業を取っています。

Understanding Finland では National unity、Trust、Equality、Self-sufficiency、Personal space & passive politeness、Modesty & hating to stand out の 6 つの要素から現代のフィンランド人の一般的な国民性やフィンランドの社会制度を深く理解しました。フィンランド人はスウェーデンやロシアの支配下にあった歴史と過酷な気候の影響でフィンランド人同士の信頼を強く持っていますが、自立性を大切にする傾向があり、18 歳の成人のタイミングで 1 人暮らしを始めるのが一般的なようです。

印象的だった話は、フィンランドの小さな町や地方では、未だに外見が外国人に見える方をフィンランド人として認めるのは抵抗感が残っているというお話です。男女の平等や教育の平等、幸福度の高さなどの良い点が多いフィンランドであるからこそ、排他性のお話を聞いたことがとても新鮮でした。ちなみに、ロヴァニエミは観光都市かつ大学があることから、あらゆる国からの訪問者が多く、とてもインターナショナルな街です。

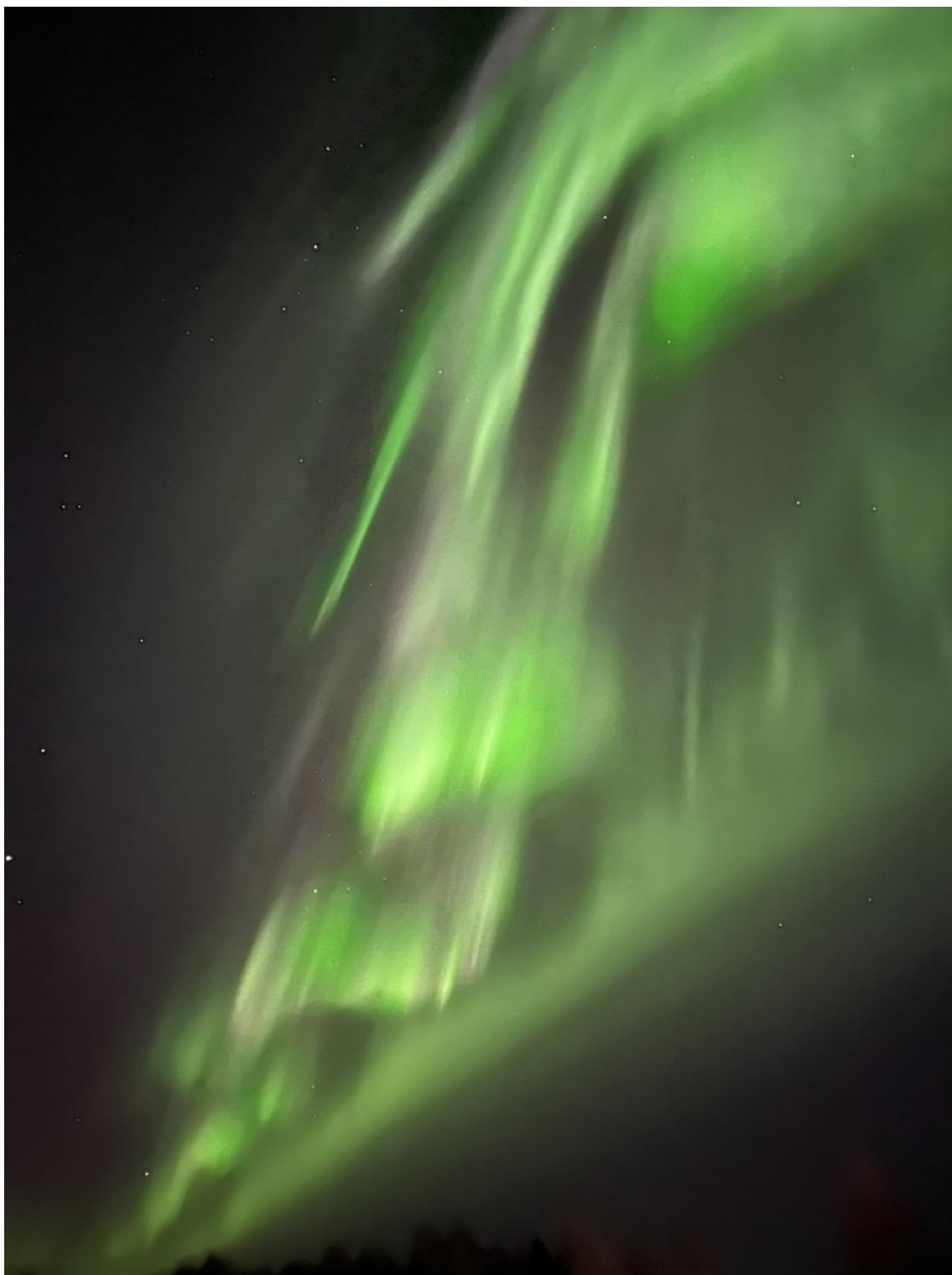
Finnish 1 では基礎的なフィンランド語を学んでいます。フィンランド語は最初の学習が難しいけれど、上達するのは簡単な言語だと言われています。スーパーマーケットの表示や地元の方の会話の一部を理解できることが多くなり、とても嬉しく感じます。

Finnish culture ではフィンランドの文化的な特徴を学んでいます。自然享受権について学ぶ回では、実際に大学の近くの小さな森へ行って他の学生と自国の森との違いについて話し合いました。日本もフィンランドと同様に森に恵まれている国ですが、日本と比較してフィンランドの森には多くの小道があり、針葉樹の細い木々の間から光が差しこむ様子から自然と森の中へ誘われるような雰囲気があると感じています。また、小学校では科目を森の中で学ぶ機会まであるようで、フィンランド人にとって森がいかに身近であるかを感じました。

Finnish System of Education ではフィンランドの教育制度を自国の教育制度と比較して学んでいます。個人的な見解としては、教育の無償化とスコアよりも理解度を重視する教育が日本と大きく異なっていると感じています。実際に大学でも、エッセイを提出するとグレードだけでなくエッセイの各段落に対する先生のコメントが添えられ、数字ではなく生徒の学んだ内容に重きが置かれていると感じました。また、グレードに納得がいけない場合はテストの再受験やエッセイの再提出が認められ、生徒の学ぶ姿勢が尊重されています。

Destination Management では観光業におけるマネジメントの考え方や各ステークホルダーの役割や構造、サステナビリティツーリズムなどについて、フィンランドやヨーロッパの事例を用いて勉強しています。オンラインでの実施のためセルフラーニングが中心にはなっていますが、ほぼ毎回、ゲストスピーカーとしてフィンランド・ヨーロッパの DMO で

勤務されている方のお話を聞くことができ、幅広く知見を深めています。



海外派遣留学プログラム中間報告書

フィンランド・ラップランド大学

(2022/10/1～2022/12/31)

LIFE

10月からは寒い日が多くなり、関東地方の12月の気温ほどに冷え込むようになりました。10月の中頃までは木々の紅葉がとても美しく、ハイキングやサイクリングを楽しむには絶好の季節でした。他の地域と比べてもロヴァニエミでは早く紅葉するため、フィンランド内でも紅葉を見にラップランド地方へ来る方もいるそうです。雨が降って紅葉の葉っぱが散る頃には、雪が降り始めます。今年は10月25日に初雪が降り、雪を待ち望んでいた留学生たちは大喜びでした。雪合戦や雪だるまづくりをするなど、童心に帰って雪遊びを楽しんでいます。また、10月は曇りの日が比較的少なく、十分な暗さがあり、更に夜でも外に長時間滞在できる気候であるため、オーロラのベストシーズンでした。週に3日ほどオーロラを見ることができました。私にはこの美しさを伝える語彙力が十分ではないのですが、音を奏でるような繊細な動きやダイナミックな動きを繰り返して、絶え間なく表情を変える様子は自然の物とは信じがたいほど、本当に美しかったです。外で観測をしていると、流れ星を見ることがもできます。星がとても良く見えるので、天体に詳しくなることができそうです。



↑通学路の紅葉

↑オーロラ

↑オーロラを真下から見た時

↑友人と作った雪のランタン

11月はフィンランド語で marraskuu と呼ばれ、死の月という意味があります。その名の通り、日照時間がどんどん短くなるにも関わらず、雪は降らずに霜が降るので町から色がなくなり暗い日々が続きます。この暗さと学校の課題に追われ、たしかに憂鬱な気持ちになることは多かったです。これまでの人生で見たことのない景色を楽しむことができました。そのため、晴れた空が見えた日はとても感動し、幸せを感じます。実体験を通じて、フィンランドの人々の幸福度が高い理由の1つに、何気ない日常が大きな幸せと感じられる長い冬も影響しているのではないのかなと感じました。また、この時期になると湖や川が凍り、その上でアイスホッケーやスケートを楽しむこともできます。



↑霜や雪で色がなくなった街の様子

↑晴れた日の美しい風景

12月になると本格的に雪が積もり、外を歩くと膝まで雪に埋もれるようになりました。フィンランドは日本より非常に乾燥しているため、雪質はパウダー状で、一粒一粒が雪の結晶からできています。そのため、雪にダイブをするとフカフカで気持ちいいです。また、-20度を下回る寒さのため、ダイヤモンドダストも見ることができ、全体的に街がキラキラとしています。特に、ロヴァニエミはサンタクロース村のある街であるため、多くの観光客で賑わいます。シティセンターで観光客の日本人の方に会うことも数回ありました。イルミネーションや多くのイベントが行われ、町全体でクリスマスをお祝いする雰囲気がとても楽しいです。冬至の日には日照時間がわずか2時間となりましたが、この暗さをもう味わえないと思うと、少し寂しい気持ちにもなります。日本では体験することのできない自然現象に感動することが多かった3ヶ月でした。



↑朝11時の日の出

↑12月限定で作られる街の中の観光施設

↑サンタクロース村

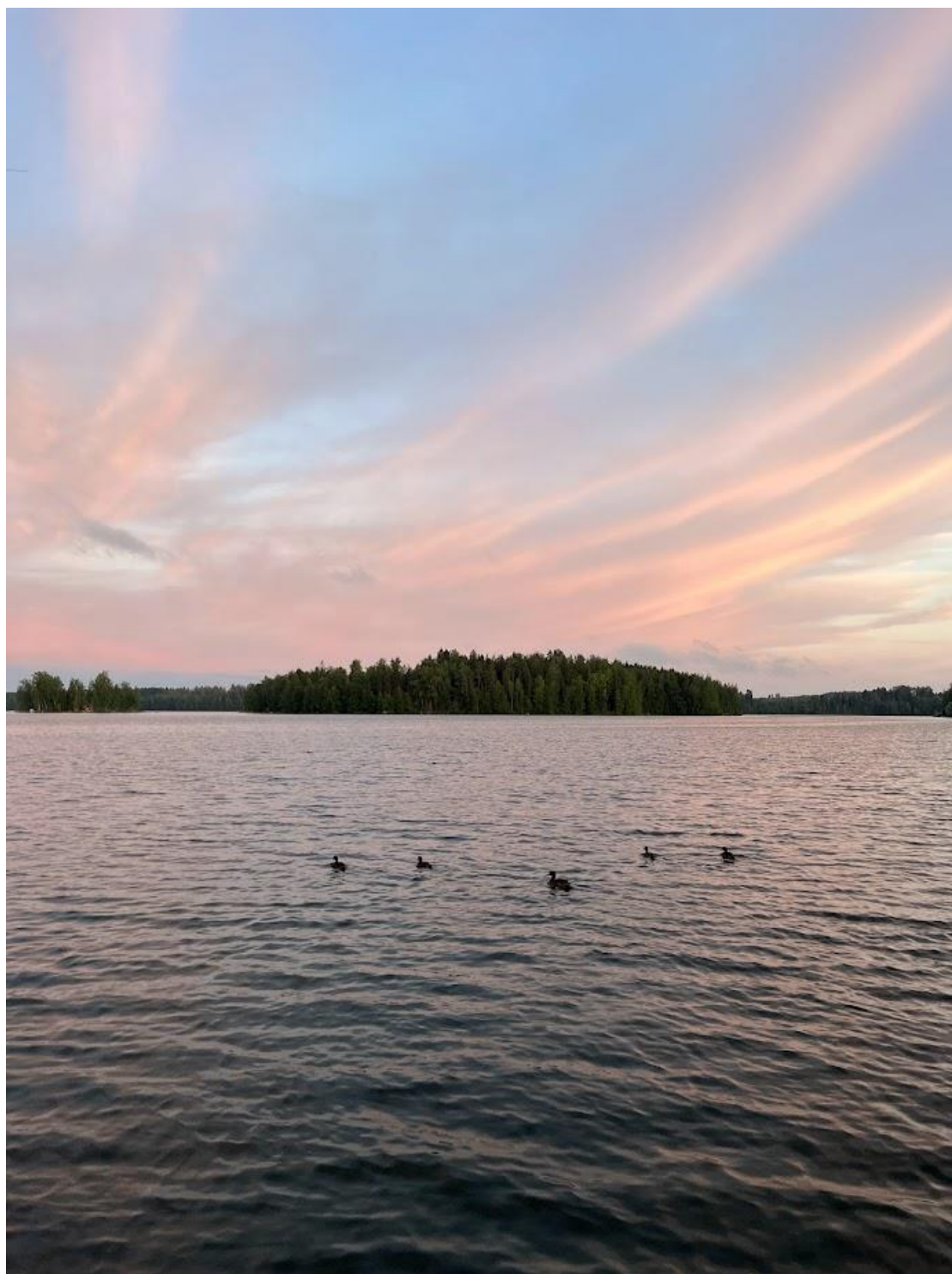
STUDY

Finnish 2ではFinnish 1よりもレベルアップをしたフィンランド語を学んでいます。フィンランド人の友人同士の会話をなんとなく理解できることが多くなりました。レストランでフィンランド語だけで注文を行えた際は小さな成功でしたが、とても嬉しく感じまし

た。また、文法について日本語と似ている部分があることに気づきました。フィンランド語では語尾が変化して活用をすることが多く、日本語の所有を意味する「～の」助詞と似ていると感じました。

Teach and Learn では、フィンランド人の学生に日本語を教えて、フィンランド人の学生からフィンランド語を学ぶ活動を行っています。実際の活動内容は全て学生に任されているため、学生が本当に学びたいことを学ぶことができる仕組みが良いと感じています。フィンランド人の学生は既に日本語学習をしている学生であったため、質問のレベルが高く、第二言語としての日本語を教えることの難しさに気づかされます。例えば、「あげる」「くれる」「もらう」の使い分けについて、やり取りをする相手が身内か、目上の相手かによって使い分けると習うそうです。個人的には意識して使い分けをしていなかったため、新しい発見でした。

People, Cultures and Identities of the Arctic ではサーミ人の歴史や生活などについて学び、最後には留学生同士でグループを作り、プレゼンテーションを行いました。自身のグループではカナダ北部のイヌイトとサーミ人を比較した、テリトリーの変化とアイデンティティへの影響についてプレゼンテーションを行いました。戦時中に国境が変化したことなどで住居を移動する文化をもつサーミ人にも、納税先の国が変更されたり、食糧確保が制限されたりなど、生活に大きな影響があったことがわかりました。北欧のサーミ人と共存してきた歴史を学ぶことで、日本の先住民と政府が抱える課題についてももっと知りたいと考えようになりました。



海外派遣留学プログラム最終月報告書

フィンランド・ラップランド大学

(2022/1/1～2023/5/31)

LIFE

12月頃からは秋学期で留学を終了する学生がクリスマスに合わせて自国へ帰ることが多いため、別れの多い時期でした。新しい環境で共に支えあってきた友人が自国へ帰ってしまうことはとても寂しく、涙することも多くありました。さよならを言うのは辛いことでしたが、半年の間にかげがえのない友人ができたことを実感しました。

また、1年留学をする留学生でもヨーロッパの学生はクリスマス期間だけ自国へ帰省する人が多いです。クリスマス期間は寮もがらんとしていて店や大学も閉まります。そのため、この時期に留学をする方は他の国への旅行を計画してみるのもいいと思います。私は就職活動と授業の課題に専念していて旅行を計画する余裕がなかったため、年末年始はロヴァニエミで、中国や台湾の留学生や現地のフィンランドの学生と過ごしました。

ここでフィンランド独特の新年の文化を紹介します。まずは、フィンランドの子どもに人気の新年の占いである *tinan valaminen* です。年末のフィンランドのスーパーでは *tinan valaminen* に使う蹄鉄型のすずが売られています。このすずを熱で溶かし形を変形させた後、冷水で冷却して形を固定させます。変形した新たなすずの形が何に見えるか連想をします。そして、連想されるものによって新年の運勢がわかるというものです。複数人の友人と占いをしましたが、全く同じ方法ですずを変形させているのにも関わらず、完成した形が1人1人異なっていて、とても面白いと思いました。日本のおみくじともよく似ていて、遠く離れた国でも似たような文化を共有しているという新たな発見がありました。

次に花火の打ち上げです。フィンランドでは大晦日の夜6時から元旦午前2時までの間であれば花火を個人で打ち上げることが可能です。花火は18歳以上であればスーパーで買うことができます。新年の花火の打ち上げはフィンランド以外の他のヨーロッパ地域でもよく行われているようです。ロヴァニエミでは市の企画による花火の打ち上げカウントダウンイベントがあり、友人と見に行きました。普段は静かで人があまり歩いていないロヴァニエミですが、夜遅くに川沿いに多くの人が集まっていることが驚きでした。花火に関してフィンランド人の友人の話で印象に残っているのが、花火の騒音が動物を脅かしているという話です。人に飼われている犬や猫だけでなく森の中に住むリスやウサギなどの野生動物が心配だという話を聞き、自然と近い暮らしをしているからこそ、動物や植物を尊重する気持ちや配慮が必要なのだと気づかされました。



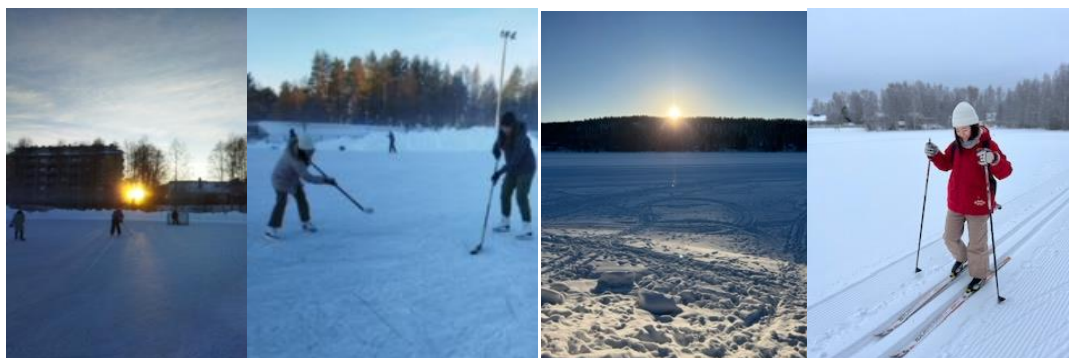
↑ tinan valaminen

↑ 変形後の tinan valaminen

↑ 友人に振舞った年越しそば

↑ 元旦の花火

1月中旬からは春学期が始まりました。しかし、春学期から新たに来る留学生の数は秋学期と比べると少なく、留学生向けに開講される授業の数も減っていました。これらの理由から、1学期だけ留学する場合は秋学期を選ぶことを個人的におすすめします。私の選択した授業は開始時期が遅かったこともあり、友人とよくスケートをして余暇を過ごしていました。アパートの近くには冬季限定で無料のスケートリンクが整備されます。また、凍った湖の上をすべることも可能です。フィンランドでは体育の授業でスケートをすることも一般的で、スケートの上手いフィンランド人の友人に教えてもらいました。アイスホッケーやスキーも人気のウィンタースポーツです。スキーに関して、フィンランドではストックを使って歩くように滑るクロスカントリースキーが主流のようです。街中でもスキー板を履いて移動している人をよく見かけます。3月には5日間ほどのスキーホリデーがあり、学校や仕事が休みになり、家族でスキーをしにいくのが定番だそうです。



↑ スケートとアイスホッケーの様子

↑ 凍った湖

↑ クロスカントリースキー

2月以降は日の長さが日に日に明るくなるのが身をもって感じられました。明るい春になるとイベントも多いです。4月はイースターのお祝いをします。最近では教会離れが進んでいるフィンランドですが、イースターを祝う文化は今も根強いようです。私は友人とエッグハンティングやイースターの食事をして楽しみました。5月は Vappu と呼ばれるメーデーを祝う行事があります。フィンランドの大学生は高校卒業時にもらう帽子と大学のオーバーオールを身に着けてピクニックを楽しみます。日本のお花見とも似ていて、学生はお酒を

飲むことが中心のようです。5月にもなると、夜になっても完全には暗くなりません。12月頃に日照時間が2時間だったことを思い出すと、その変化の大きさに驚きです。



↑ イースターのお祝いの食事

↑ vappu のお祝いの食事

↑ vappu のパレードの様子

STUDY

Finnish 3、Finnish 4 ではこれまでよりも文法をメインとしたフィンランド語を学んでいます。肯定分の過去形と否定分の過去形、接続詞などを学びました。文法に力を入れて学んだことで文章を作る能力が上がり、自分が伝えたい内容を前よりもかなり表現できるようになりました。フィンランド人の友人の、フィンランド語のみを話す祖父母に会った際に、自己紹介や最近会った出来事などをフィンランド語で話すことができ、自身の成長を感じました。

春学期の Teach and Learn では、台湾人の学生に日本語を教えて、台湾人の学生から台湾華語と中国語を学ぶ活動を行っていました。私は千葉大学で簡体字の中国語を第二外国語として学んだのですが、フィンランドで出会った中国、台湾、香港の学生が中国語でコミュニケーションをしているのを見て、それぞれの国での中国語の違いに興味を持つようになりました。台湾では日本で使用する漢字と似た繁体字を使っていますが、簡体字のピンインの代わりとなるポポモフォというローマ字のような入力システムを使っていることを知りました。また、台湾華語という台湾のみで使われる方言があることも新たに知りました。言語の学習を通じて、それぞれの国が歩んだ歴史や各国に日本がどのように関与したかを再認識しました。4月には在フィンランド中国大使館主催の中国語スピーチコンテストフィンランド大会に参加し、3位の成績を収め、学習の成果を発揮することが出来ました。

Nordic Welfare State Models はフィンランド内の複数の大学の学生が受講できるオンラインのクラスでした。北欧の福祉モデルについて歴史と特徴、サステナビリティ、労働者、障がい者、移民、将来の危機などの観点から学び、他学生とオンラインのボードで意見交換をして、最後にラーニングダイアリーとショートエッセイを書きました。北欧諸国の福祉制度の特徴は、高いレベルの社会の安全性と、医療、介護、教育の公共サービスを提供することです。戦後 19 世紀後半から 20 世紀初頭にかけてデンマークを起点に発展していったこ

とを知りました。様々なトピックの中でも特に興味をもったのは、フィンランドが他の先進諸国と同様に高齢化による労働力の必要性と移民排斥の対立課題を抱えていることです。私個人としては北欧の高福祉制度を支える制度の一つとして高い税率があり、現在の福祉制度を維持する場合、所得税や消費課税を通じて国民から税金を徴収するための人口や企業の確保が必要と考え、今後は更に移民を受け入れていくのではないかという意見発表をしました。